

## ■現計画における課題

### 課題①

#### 町の将来像を見据えた公共交通ネットワーク（路線網と拠点）が必要

- ・都市計画上の市街地エリア（用途地域内など）における公共交通サービスの維持・向上が必要
- ・乗り継ぎが発生する交通結節点やバス停などにおいては、安全・快適かつ分かりやすい環境整備が必要

### 課題②

#### 広域移動及び地域間（町内）の移動を支える公共交通ネットワークが必要

- ・会津エリアの中心市である会津若松市や日常生活圏である会津坂下町などの隣接自治体にある広域都市機能（病院・商業施設など）にアクセスできる公共交通ネットワークの検討が必要
- ・高田・本郷・新鶴の3地域をつなぐ公共交通ネットワーク・拠点の形成、維持・強化が必要
- ・鉄道などによる来訪者の移動の手段確保が必要

### 課題③

#### 利用実態や移動ニーズに対応した公共交通が必要

- ・車を運転しない・できない高齢者や高校生などの交通弱者の日常生活における移動手段の確保が必要
- ・利用の見込める施設・区間のサービス向上が必要（人口密集地区、公共施設、病院及び市街地の経由、鉄道との連携・役割分担など）
- ・利用の少ない路線・区間にについて、運行効率化に向けた運行形態や運行方法などの検討が必要

### 課題④

#### 持続可能な公共交通事業の確立が必要

- ・将来的に町民の移動手段を確保・維持していくために、交通モード間の重複・競合を避け、地域（町内）の公共交通（路線、交通事業者）を守り育てていくことが必要
- ・将来的に町民の移動手段を確保・維持していくために、広域路線バスの負担軽減と、利用率の多い区間へのサービス拡充により、広域の公共交通を守り育てていくことが必要
- ・公共交通の効果的な情報発信や、公共交通を利用すると買い物・飲食・観光などでお得になるような仕組みづくりが必要（商店街との連携強化など）

## ■網形成計画に示される施策の取組み状況の整理

### ■広域交通である路線バス・JR只見線の利便性向上

- ・高田線2路線を統合再編統合再編し、運行内容を見直し
- ・本郷線2路線を循環路線化し、統合再編し運行内容を見直し
- ・JR東日本への要望活動（運行時間帯・車両数）
- ・両サービスともに「運行本数・時間帯」に関する町民からの評価は全体の傾向から見ると低い

### ■利用が見込めるエリアへの乗入れ

- ・路線バスによる会津西病院、吹上台団地等への乗入れを目指したもの、乗降調査の実績ではそれほど利用者が得られず伸び悩んでいる

### ■美里あいあいタクシーの利便性向上

- ・「非固定ダイヤ型への切替え」「土日・祝日運行の追加」等を実施
- ・加えて、アプリ「のるーと」を活用した「オンライン予約への対応」「到着予定時間の通知」「クレジット決済」などにも対応
- ・なお、概ねの利用者からは感謝の声を貰っているものの、一部利用者からは「以前の形式に戻してほしい」「利用券販売所を増やしてほしい」や「帰宅便が混雑して1~2時間以上待った」などといった意見が出ている

### ■美里あいあいタクシーによる坂下厚生総合病院への実証運行

- ・町外の高次医療施設である「坂下厚生総合病院」への移動手段の確保を目的として通常よりも乗降場所・時間帯を絞った実証運行を実施
- ・町民全体への認知度も3割以下であり、通常便の利用者のうち約9割が利用していないが、多くは「利用する必要がない」といったものであり、僅かに「乗降場所・時間帯が合わない」という指摘も存在
- ・なお、坂下厚生総合病院以外にも「会津西病院」への運行を求める声が散見された※路線バスとの競合可能性が高いため乗入れの際は注意

### ■観光二次交通の整備

- ・デマンド交通の時刻表を撤廃し、路線バス・鉄道との接続の円滑化

### ■各地域における都市交通軸の形成

- ・じげんプラザおよび行政施設への乗入れを行い、交通拠点として美里あいあいタクシーと路線バスとの乗継利便性を確保
- ・ただし「バス同士およびバス↔鉄道間の乗継利便性」に関する町民からの評価は全体の傾向から見ると低い

### ■車内利用環境の改善

- ・路線バス車内においてICカード機器の導入が見込まれており「利用者の利便性の向上」だけでなく「利用データの活用」による運行計画の適正化などが期待される
- ・UDタクシーや低床バス車両の導入で車両のバリアフリー化を実施
- ・なお、一部のバリアフリー対応がなされていない車両において「一部の運転手が乗降台を出さなかった」など利用者から不満の声が上がっている

### ■公共交通の情報発信

- ・会津圏域バスマップを用いることで、町内を経由する路線バスの運行ルート等を分かりやすく公開（作成：会津圏域公共交通活性化協議会）
- ・一方で、町HPでは時刻表などは会津バスHPへのリンクが記載されている程度であり、リンク先でも「多くの路線名が記載されている」「マップと路線名が異なる」などの状況が散見されており、町民からの利用環境の見直しに関する要望においては「総合的なマップ・時刻表の導入」の要望が最も多い

### ■利用促進に向けた町民へのアプローチ

- ・ギャラリーバスの実施、こども園の園児を対象としたバスの乗り方教室の実施、高齢者を対象にしたスマートフォン教室の開催、出前講座の開催
- ・JR只見線応援キャラクター「キハちゃん」とのコラボによって地域の魅力をPR【え！山がまるごとお城なの！？（YouTubeチャンネル「キハちゃんねる」）】

### ■他分野との施策連携

- ・教育分野との連携により、町内4つのこども園にて路線バスの乗り方教室を実施し、路線バスの利用促進を図った（4件）
- ・また、町内4こども園に只見線のノベルティグッズを配布し、只見線の利用促進を図った（4件）
- ・観光分野と連携し、只見線のノベルティグッズとデマンド交通チラシを観光客へ配布し、只見線と二次交通であるデマンド交通の利用促進を図った（1件）

## ■更なる磨き上げに向けて

### ●網形成計画時点の課題に関する事項

美里あいあいタクシーのサービスレベルの向上を行ったことにより、概ねの利用者からは高評価を得たが、限られた車両台数の中で効率的に運行することが難しい事象も散見されておりシステム面および体制面での調整が望ましい。また、会津若松市方面への移動ニーズも一定程度存在することから、さらなる交通結節点での路線バス・JR只見線との乗継利便性をアピールすることで利用者の維持が期待

路線バス・JR只見線については主に会津若松市方面への「朝夕の高校生の通学」や「日中の高齢者の通院」に用いられているが「運行本数・時間帯・乗継利便性」について不満が多い状況が続いている。

中でも高校生は保護者が駅等の交通結節点に送迎している実態もあり、特に夜のJR只見線の帰宅便運行時間が遅いことも考慮すると保護者の負担軽減策が求められる。また、両サービスの「運行便数・運賃の差」なども上手く利用されていない原因となる。

予約制の運行により効率的に運行しているものの、路線バスの運行範囲内を運行していることもあり、適切な連携・役割分担が望ましい。

なお、今後の町の政策として高田地域の「中心部の活性化」や新鶴地域の「ふれあいの森運動公園を中心とした資源活用」「部活動の地域移行」などの取組によって移動ニーズが生まれる可能性がある。

町民の自家用車に対する利用意識が非常に高い中で「交通事業者の人員不足」や「運行に係る経費の増加」などが年々深刻化している。

加えて、多くの利用者がアプリ上で予約・精算ができることで事業者の負担が軽減されるよう高齢者に向けた支援（セミナー等）も求められる。

### ●その他に考慮すべき事項

既に現計画では交通事業者以外の関係者との連携についての記載はあるが、公共交通計画への改定内容の目玉として同事項が記載され、より対応への要求度が上昇

近年、MaaSやDXに関する取り組みが盛んとなっており、利用者の利便性や情報の伝達性、業務の効率性などの向上のために国・県が積極的に導入を推進